

平成 27 年国勢調査  
従業地・通学地集計結果報告書

平成 29 年 12 月  
宇都宮市総合政策部政策審議室

## 目 次

|              |    |
|--------------|----|
| 1. 昼夜間人口     | 1  |
| 2. 流入人口・流出人口 | 2  |
| 3. 従業地・通学地   | 3  |
| 4. 通勤・通学者    | 9  |
| 5. 年齢別就業者    | 17 |
| 6. 産業大分類別就業者 | 22 |
| 用語の解説        | 28 |

### ※利用上の注意

1. 本報告書は、総務省統計局から公表された「平成27年国勢調査 従業地・通学地集計」の宇都宮市分を集計したものです。  
「従業地・通学地集計結果」では、従業地・通学地による人口の構成、常住地と従業地・通学地の関係などを把握することができます。
2. 本文及び図表の数値は、総数に分類不能・不詳等の数値を含むため、また、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計とは必ずしも一致しません。
3. 過去の数値は、特に注記がない限り旧2町（上河内町・河内町）分を組み入れて算出しています。
4. 表中の「0」、 「0. 0」、 「-0. 0」は、集計した数値が表章単位に満たないものです。

## 1. 昼夜間人口

本市の昼間人口は 537,708 人で、平成 22 年と比べ、2,391 人増加した。夜間人口に対する昼間人口の割合（昼夜間人口比率）は 103.7 で、平成 22 年と比べ、0.9 ポイントの低下となった。

平成 2 年からの推移をみていくと、昼間人口及び夜間人口はそれぞれ増加しているものの、昼夜間人口比率は、平成 2 年からみていくと平成 7 年の 107.1 をピークに、それ以降低下している。（表-1、図-1 参照）

表-1 昼夜間人口の推移（15歳未満を含む）

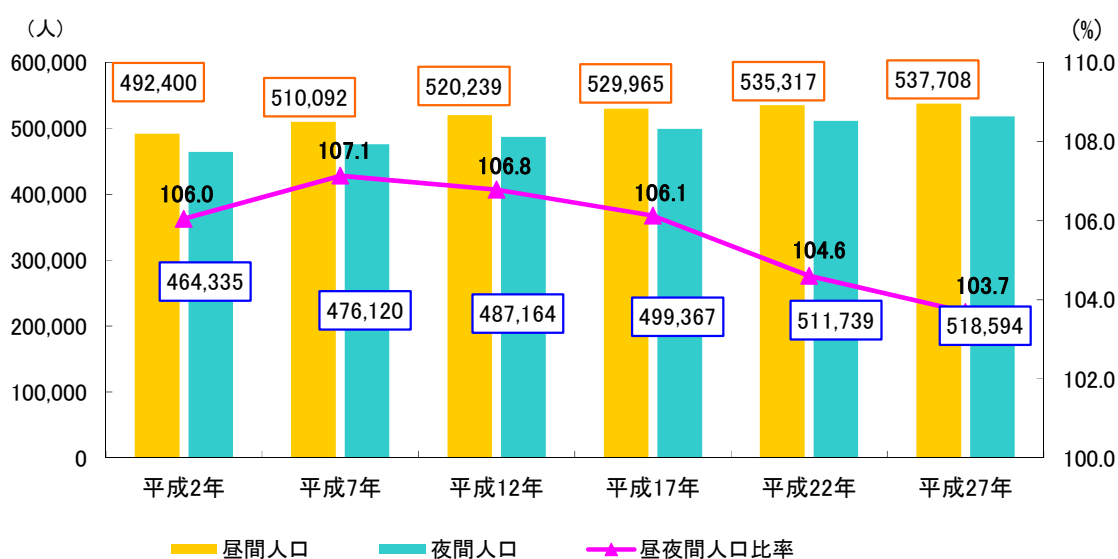
| 年次    | 昼間人口    | 夜間人口    | 流入状況   |        |        | 昼夜間人口比率 |
|-------|---------|---------|--------|--------|--------|---------|
|       |         |         | 流入人口   | 流出人口   | 流入超過   |         |
| 平成2年  | 492,400 | 464,335 | 64,409 | 36,344 | 28,065 | 106.0   |
| 平成7年  | 510,092 | 476,120 | 75,669 | 41,697 | 33,972 | 107.1   |
| 平成12年 | 520,239 | 487,164 | 78,447 | 45,372 | 33,075 | 106.8   |
| 平成17年 | 529,965 | 499,367 | 80,840 | 50,245 | 30,595 | 106.1   |
| 平成22年 | 535,317 | 511,739 | 75,561 | 59,175 | 16,386 | 104.6   |
| 平成27年 | 537,708 | 518,594 | 76,175 | 57,061 | 19,114 | 103.7   |

※1 労働力状態「不詳」及び従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。

※2 労働力状態「不詳」を含む。

※3 15歳未満を含む。

図-1 昼夜間人口及び昼夜間人口比率の推移



## 2. 流入人口・流出人口

流出人口は平成2年－平成27年では増加傾向にあり、特に平成17年－平成22年では8,930人（17.7%）の増加となっていたが、平成22－平成27年では2,114人（-3.7%）の減少となった。流入人口は平成2年－平成17年まで増加していたものの、平成17年の80,840人から平成22年に75,561人へ5,279人（-6.5%）減少し、平成27年では76,175人と614人（0.8%）の微増の結果となった。（表2、図2参照）

流入超過（流入人口から流出人口を差し引いた結果）をみていくと、平成2－17年では3万人前後で推移しているが、平成17－22年では14,209人（-46.4%）減と半減した。平成27年には2,728人（16.6%）の増加をしたものの約2万人程度となっている。（図3参照）

表-2 流入・流出人口調査年間増減及び増減率

| 年次        | 流入人口<br>調査年間<br>増減数 | 流出人口<br>調査年間<br>増減数 | 流入人口<br>調査年間<br>増減率% | 流出人口<br>調査年間<br>増減率% |
|-----------|---------------------|---------------------|----------------------|----------------------|
| S60 - H2  | 13,202              | 8,956               | 25.7                 | 32.7                 |
| H2 - H7   | 11,260              | 5,353               | 17.4                 | 14.7                 |
| H7 - H12  | 2,778               | 3,675               | 3.6                  | 8.8                  |
| H12 - H17 | 2,393               | 4,873               | 3.0                  | 10.7                 |
| H17 - H22 | -5,279              | 8,930               | -6.5                 | 17.7                 |
| H22 - H27 | 614                 | -2,114              | 0.8                  | -3.7                 |

図-2 流入・流出人口の推移

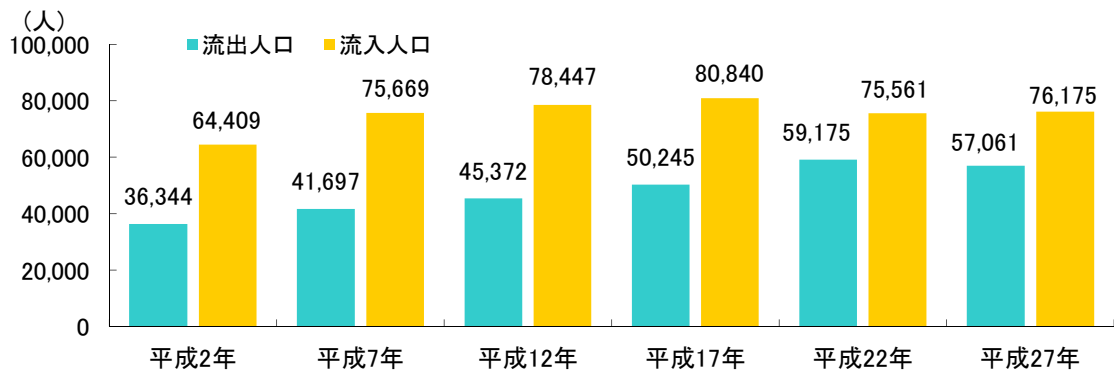
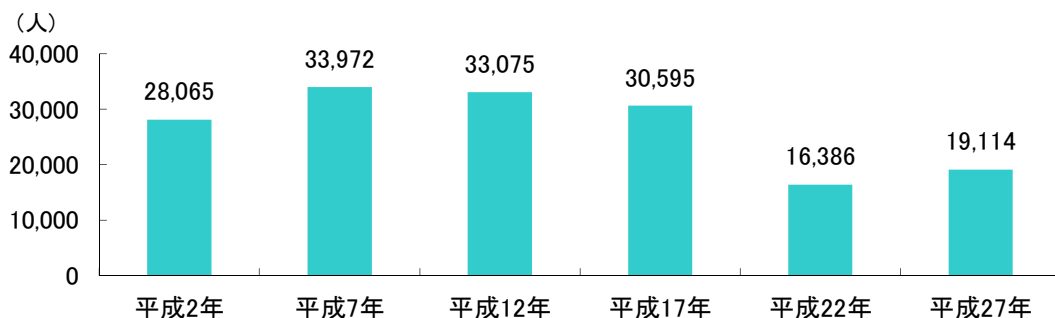


図-3 流入人口－流出人口（流入超過）の推移



### 3. 従業地・通学地

#### (1) 宇都宮市への通勤・通学者

宇都宮市への通勤・通学者数は、平成12年以降減少し続けている。

総数が最大であった平成7年と比較すると、総数で32,165人(10.1%)減少の269,453人となっている。内訳をみると、市内居住者が193,798人、市外居住者が75,655人となっている。

平成2年より推移をみると、平成27年では0.4ポイントの増加となっているが、自宅就業者は平成2年から減少し続け、25年間で半減しており、総数に占める割合も13.7%(平成2年)から半数の7.8%(平成27年)と大きく低下している。

市内居住者で自宅外に通勤通学する者は平成7年の207,277人以降減少し続けており、20年間で16.6%減少し、172,872人となっている。

市外居住者の総数に占める割合は、平成2年から増加し続け28.1%となった。

(表-3 参照)

表-3 宇都宮市へ通勤・通学する者の常住地内訳の推移

単位：人

| 通勤・通学地   | H2      | H7      | H12     | H17     | H22     | H27     |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 自宅       | 41,016  | 32,966  | 31,158  | 26,847  | 20,350  | 20,926  |
| 自宅外通勤・通学 | 194,741 | 207,277 | 200,623 | 192,045 | 178,197 | 172,872 |
| 市内       | 235,757 | 240,243 | 231,781 | 218,892 | 198,547 | 193,798 |
| 県内各市町    | 58,875  | 67,561  | 70,174  | 71,721  | 67,793  | 66,863  |
| 県外       | 5,534   | 7,556   | 7,831   | 8,658   | 7,253   | 8,792   |
| 市外       | 64,409  | 75,117  | 78,005  | 80,379  | 75,046  | 75,655  |
| 総計(※1)   | 300,166 | 315,360 | 309,786 | 299,271 | 273,593 | 269,453 |

(※1)従業地・通学地「不詳」は除く。

#### 構成比

単位：%

| 通勤・通学地   | H2    | H7    | H12   | H17   | H22   | H27   |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 自宅       | 13.7  | 10.5  | 10.1  | 9.0   | 7.4   | 7.8   |
| 自宅外通勤・通学 | 64.9  | 65.7  | 64.8  | 64.2  | 65.1  | 64.2  |
| 市内       | 78.5  | 76.2  | 74.8  | 73.1  | 72.6  | 71.9  |
| 県内各市町    | 19.6  | 21.4  | 22.7  | 24.0  | 24.8  | 24.8  |
| 県外       | 1.8   | 2.4   | 2.5   | 2.9   | 2.7   | 3.3   |
| 市外       | 21.5  | 23.8  | 25.2  | 26.9  | 27.4  | 28.1  |
| 総数       | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

(2) 宇都宮市への通勤者

宇都宮市への通勤者は、平成7年より減少し続け、242,002人となった。  
 内訳をみると、市内居住者が177,346人、市外居住者が64,656人となっている。  
 平成2年からの推移をみると、市内居住者は平成12年から減少し続け、減少幅も拡大して  
 いていたが、平成27年は減少幅が縮小した。  
 一方、市外居住の通勤者は、平成2年から平成27年の25年間で1.3倍になり64,656人  
 となっている。  
 通勤者総数に占める割合は、平成2年から増加し続け26.7%となった。(表-4 構成比参照)

表-4 宇都宮市へ通勤する者の常住地内訳の推移

単位：人

| 通勤地    | H2      | H7      | H12     | H17     | H22     | H27     |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 自宅就業者  | 41,016  | 32,966  | 31,158  | 26,847  | 20,350  | 20,926  |
| 自宅外通勤  | 165,198 | 179,205 | 176,467 | 171,464 | 161,784 | 156,420 |
| 市内     | 206,214 | 212,171 | 207,625 | 198,311 | 182,134 | 177,346 |
| 県内他市町  | 44,937  | 53,056  | 57,519  | 60,273  | 57,729  | 57,174  |
| 県外     | 4,186   | 5,538   | 6,263   | 7,194   | 6,159   | 7,482   |
| 市外     | 49,123  | 58,594  | 63,782  | 67,467  | 63,888  | 64,656  |
| 総計(※1) | 255,337 | 270,765 | 271,407 | 265,778 | 246,022 | 242,002 |

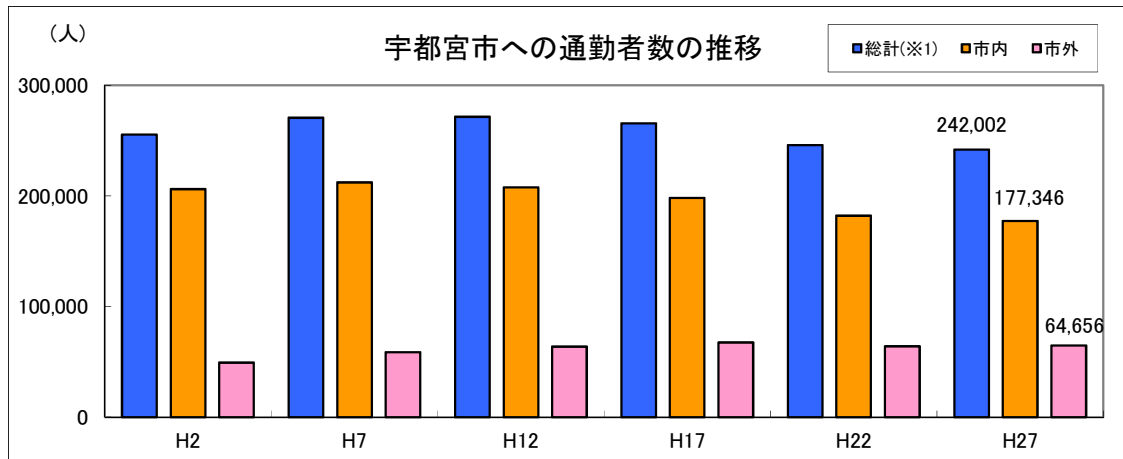
(※1)従業地・通学地「不詳」は除く。

構成比

単位：%

| 通勤地   | H2    | H7    | H12   | H17   | H22   | H27   |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 自宅就業者 | 16.1  | 12.2  | 11.5  | 10.1  | 8.3   | 8.6   |
| 自宅外通勤 | 64.7  | 66.2  | 65.0  | 64.5  | 65.8  | 64.6  |
| 市内    | 80.8  | 78.4  | 76.5  | 74.6  | 74.0  | 73.3  |
| 県内他市町 | 17.6  | 19.6  | 21.2  | 22.7  | 23.5  | 23.6  |
| 県外    | 1.6   | 2.0   | 2.3   | 2.7   | 2.5   | 3.1   |
| 市外    | 19.2  | 21.6  | 23.5  | 25.4  | 26.0  | 26.7  |
| 総数    | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

図-4 宇都宮市への通勤者の推移



### (3) 宇都宮市への通学者

宇都宮市への通学者は平成7年より減少し続け、27,451人となった。  
 内訳をみると、市内居住者が16,452人、市外居住者が10,999人となっている。  
 平成2年からの推移をみると、通学者の総数は平成2年以降減少が続いている。  
 市外居住の通学者については、平成7年から減少が続き、10,999人となったが、通学者総数に占める割合は上昇が続いている。(表-5、図-5参照)

表-5 宇都宮市に通学する者の常住地の内訳の推移

単位：人

| 通学地    | H2     | H7     | H12    | H17    | H22    | H27    |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 市内     | 29,543 | 28,072 | 24,156 | 20,581 | 16,413 | 16,452 |
| 県内各市町  | 13,938 | 14,505 | 12,655 | 11,448 | 10,064 | 9,689  |
| 県外     | 1,348  | 2,018  | 1,568  | 1,464  | 1,094  | 1,310  |
| 市外     | 15,286 | 16,523 | 14,223 | 12,912 | 11,158 | 10,999 |
| 総計(※1) | 44,829 | 44,595 | 38,379 | 33,493 | 27,571 | 27,451 |

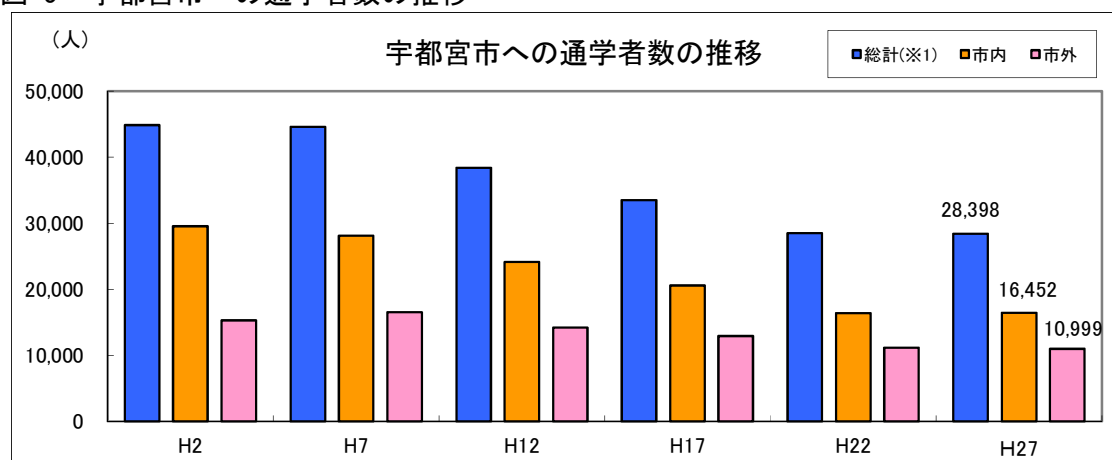
(※1)従業地・通学地「不詳」は除く。

### 構成比

単位：%

| 通学地   | H2    | H7    | H12   | H17   | H22   | H27   |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 市内    | 65.9  | 62.9  | 62.9  | 61.4  | 59.5  | 59.9  |
| 県内各市町 | 31.1  | 32.5  | 33.0  | 34.2  | 36.5  | 35.3  |
| 県外    | 3.0   | 4.5   | 4.1   | 4.4   | 4.0   | 4.8   |
| 市外    | 34.1  | 37.1  | 37.1  | 38.6  | 40.5  | 40.1  |
| 総数    | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

図-5 宇都宮市への通学者数の推移



#### (4) 宇都宮市からの通勤・通学者

宇都宮市から市外への通勤・通学者の総数は 56,949 人で、調査ごとに増加している。内訳をみると、県外への通勤・通学者は 9,091 人、県内各市町へは 47,858 人となっている。

平成 2 年からの推移をみると、県内各市町への通勤・通学者数は調査ごとに増加し続けている。

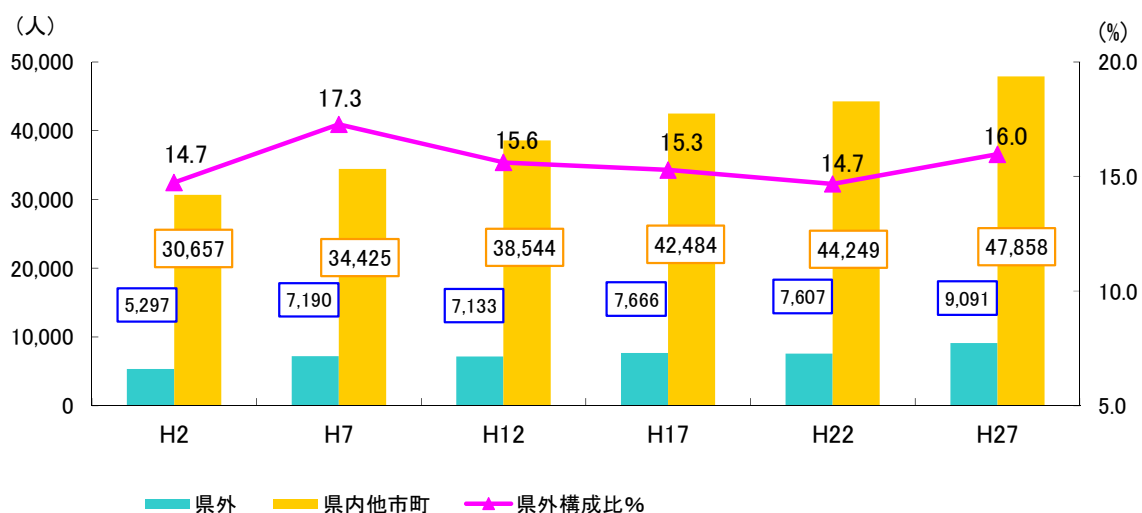
市外への通勤・通学者に占める県外への通勤・通学者の割合は、平成 7 年の 17.3% をピークに低下し続けていたが、平成 27 年には 16.0% と増加している。(表-6、図-6 参照)

表-6 宇都宮市から通勤・通学する者の通勤・通学地内訳の推移 単位：人

| 通勤通学地  | H2     | H7     | H12    | H17    | H22    | H27    |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 県外     | 5,297  | 7,190  | 7,133  | 7,666  | 7,607  | 9,091  |
| 県内各市町  | 30,657 | 34,425 | 38,544 | 42,484 | 44,249 | 47,858 |
| 総計(※1) | 35,954 | 41,615 | 45,677 | 50,150 | 51,856 | 56,949 |
| 県外構成比% | 14.7   | 17.3   | 15.6   | 15.3   | 14.7   | 16.0   |

(※1)他市区町村に就業・通学で、就業地・通学地「不詳」は除く。

図-6 宇都宮市外への通勤・通学者数と構成比の推移





## (5) 宇都宮市からの通勤者

宇都宮市から市外への通勤者の総数は、平成 2 年から増加し続け、平成 27 年には 51,861 人となった。

内訳をみると、県外への通勤者は 6,983 人、県内各市町への通勤者は 44,878 人となり、平成 22 年と比較するといずれも増加している。

市外への通勤者に占める県外への通勤者の割合は、平成 7 年の 13.9% をピークに低下し続けていたが、平成 27 年は平成 22 年から 1.1 ポイント増加し、13.5% となった。

(表-7、図-6 参照)

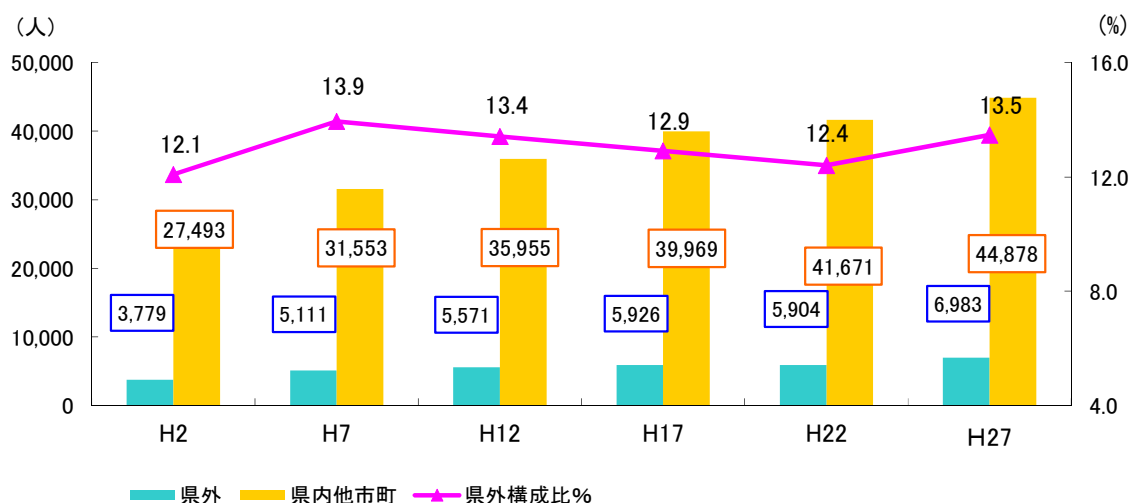
表-7 宇都宮市から通勤する者の通勤地内訳の推移

単位：人

| 通勤地    | H2     | H7     | H12    | H17    | H22    | H27    |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 県外     | 3,779  | 5,111  | 5,571  | 5,926  | 5,904  | 6,983  |
| 県内各市町  | 27,493 | 31,553 | 35,955 | 39,969 | 41,671 | 44,878 |
| 総計(※1) | 31,272 | 36,664 | 41,526 | 45,895 | 47,575 | 51,861 |
| 県外構成比% | 12.1   | 13.9   | 13.4   | 12.9   | 12.4   | 13.5   |

(※1)他市区町村に就業・通学で、就業地・通学地「不詳」は除く。

図-7 宇都宮市外への通勤者数と構成比の推移



## (6) 宇都宮市からの通学者

宇都宮市から市外への通学者の総数は平成2年以降4000人～5000人程度で推移し、平成27年では5,200人となった。

内訳をみると、県内各市町への通学者は平成2年以降2500人～3000人程度で推移し、平成27年では3,038人となった。

市外への通学者に占める県外への通学者の割合は平成22年から2.0ポイント増加し、41.6%となった。(表-8, 図-8 参照)

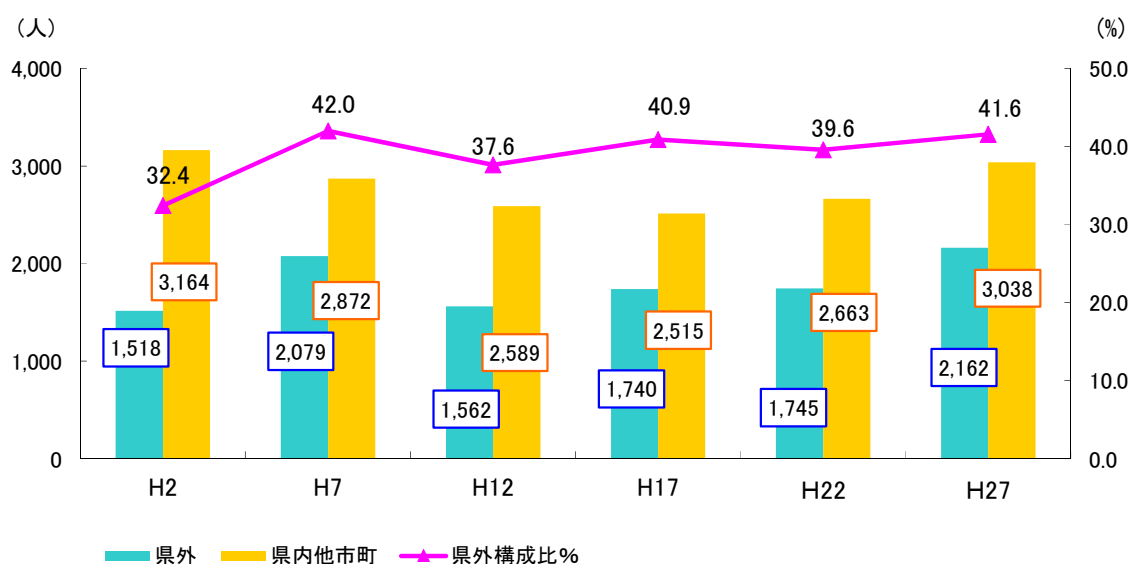
表-8 宇都宮市から通学する者の通学地内訳の推移

単位：人

| 通学地    | H2    | H7    | H12   | H17   | H22   | H27   |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 県外     | 1,518 | 2,079 | 1,562 | 1,740 | 1,745 | 2,162 |
| 県内各市町  | 3,164 | 2,872 | 2,589 | 2,515 | 2,663 | 3,038 |
| 総計(※1) | 4,682 | 4,951 | 4,151 | 4,255 | 4,408 | 5,200 |
| 県外構成比% | 32.4  | 42.0  | 37.6  | 40.9  | 39.6  | 41.6  |

(※1)他市区町村に就業・通学で、就業地・通学地「不詳」は除く。

図-8 宇都宮市外への通学者数と構成比の推移



## 4. 通勤・通学者

### (1) 県内他市町・県外から宇都宮市への通勤・通学者

宇都宮市への通勤・通学者を常住自治体別にみると、県内では鹿沼市からの9,015人(11.9%)が最も多く、次いで日光市からの5,374人(7.1%)の順になっている。県外では埼玉県からの2,688人(3.6%)が最も多く、次いで茨城県からの2,476人(3.3%)の順になっている。(表-9参照)

通勤者は、県内では鹿沼市からの7,886人(12.2%)が最も多く、次いで日光市からの4,560人(7.1%)の順になっている。県外では埼玉県からの2,357人(3.6%)が最も多く、次いで茨城県からの1,962人(3.0%)の順になっている。(表-10参照)

通学者は、県内では鹿沼市からの1,129人(10.3%)が最も多く、次いで下野市からの874人(7.9%)の順になっている。(表-11参照)

表-9 自治体別通勤・通学者数と構成比(宇都宮市外居住)

| 常住地名  | 流入人数   | 構成比%  | 常住地名     | 流入人数   | 構成比% |
|-------|--------|-------|----------|--------|------|
| 総数    | 75,655 | 100.0 | 塩谷町      | 958    | 1.3  |
| 鹿沼市   | 9,015  | 11.9  | 茂木町      | 763    | 1.0  |
| 日光市   | 5,374  | 7.1   | 佐野市      | 663    | 0.9  |
| 下野市   | 5,176  | 6.8   | 那珂川町     | 526    | 0.7  |
| 真岡市   | 5,083  | 6.7   | 足利市      | 410    | 0.5  |
| さくら市  | 4,859  | 6.4   | 野木町      | 354    | 0.5  |
| 高根沢町  | 4,667  | 6.2   | 那須町      | 240    | 0.3  |
| 上三川町  | 4,409  | 5.8   | 不詳       | 0      | 0.0  |
| 壬生町   | 4,239  | 5.6   | 県内計      | 66,863 | 88.4 |
| 小山市   | 3,775  | 5.0   | 埼玉県      | 2,688  | 3.6  |
| 栃木市   | 3,698  | 4.9   | 茨城県      | 2,476  | 3.3  |
| 芳賀町   | 2,336  | 3.1   | 東京都      | 996    | 1.3  |
| 那須烏山市 | 2,055  | 2.7   | その他の都道府県 | 782    | 1.0  |
| 那須塩原市 | 2,030  | 2.7   | 群馬県      | 571    | 0.8  |
| 矢板市   | 1,831  | 2.4   | 神奈川県     | 463    | 0.6  |
| 益子町   | 1,588  | 2.1   | 福島県      | 415    | 0.5  |
| 市貝町   | 1,426  | 1.9   | 千葉県      | 401    | 0.5  |
| 大田原市  | 1,388  | 1.8   | 県外計      | 8,792  | 11.6 |

表-10 自治体別通勤者数(宇都宮市外居住)

| 市町名      | 通勤者数   | 構成比%  |
|----------|--------|-------|
| 総数       | 64,656 | 100.0 |
| 鹿沼市      | 7,886  | 12.2  |
| 日光市      | 4,560  | 7.1   |
| 真岡市      | 4,540  | 7.0   |
| その他の市町   | 40,188 | 62.2  |
| 県内計      | 57,174 | 88.4  |
| 埼玉県      | 2,357  | 3.6   |
| 茨城県      | 1,962  | 3.0   |
| 東京都      | 945    | 1.5   |
| その他の都道府県 | 2,218  | 3.4   |
| 県外計      | 7,482  | 11.6  |

表-11 自治体別通学者数(宇都宮市外居住)

| 市町名      | 通学者数   | 構成比%  |
|----------|--------|-------|
| 総数       | 10,999 | 100.0 |
| 鹿沼市      | 1,129  | 10.3  |
| 下野市      | 874    | 7.9   |
| 日光市      | 814    | 7.4   |
| その他の市町   | 6,872  | 62.5  |
| 県内計      | 9,689  | 88.1  |
| 茨城県      | 514    | 4.7   |
| 埼玉県      | 331    | 3.0   |
| 福島県      | 111    | 1.0   |
| その他の都道府県 | 354    | 3.2   |
| 県外計      | 1,310  | 11.9  |

※表-10、表-11は県内・県外ともに上位3位まで

## (2) 県内他市町・県外からの宇都宮市への通勤者の動向

市外から宇都宮市への通勤者数の推移を県内他市町の県内上位 5 位では鹿沼市が最多の 7,886 人となっており、平成 2 年以降連続して他市町を大きく引き離して 1 位となっている。平成 22 年と比べ、増加したのは下野市とさくら市の 2 市であり、他 3 市は減少している。(表-12, 図-9 参照)

県外からの通勤者数の推移をみると、平成 2 年では茨城県が 1 位となっていたが、平成 7 年以降、埼玉県が 1 位となっている。また、平成 22 年と比べると、上位 3 県とも宇都宮市への通勤者数は増加している。(表-13, 図-10 参照)

表-12 県内他市町から宇都宮市への通勤者数の推移(平成 27 年調査県内順位上位 5 位)

| 市町名  | H2    | 順位 | H7    | 順位 | H12   | 順位 | H17   | 順位 | H22   | 順位 | H27   | 順位 |
|------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 鹿沼市  | 5,514 | 1  | 7,098 | 1  | 7,844 | 1  | 8,193 | 1  | 7,901 | 1  | 7,886 | 1  |
| 日光市  | 3,949 | 3  | 4,884 | 2  | 4,988 | 2  | 5,083 | 2  | 4,674 | 2  | 4,560 | 2  |
| 真岡市  | 2,620 | 8  | 3,216 | 7  | 3,900 | 6  | 4,366 | 4  | 4,627 | 3  | 4,540 | 3  |
| 下野市  | 3,265 | 4  | 3,659 | 5  | 3,929 | 5  | 4,154 | 6  | 3,919 | 6  | 4,302 | 4  |
| さくら市 | 3,220 | 5  | 3,734 | 4  | 4,104 | 4  | 4,248 | 5  | 4,142 | 5  | 4,270 | 5  |

表-13 県外から宇都宮市への通勤者数の推移(平成 27 年調査都道府県順位上位 3 位)

| 都道府県名 | H2    | 順位 | H7    | 順位 | H12   | 順位 | H17   | 順位 | H22   | 順位 | H27   | 順位 |
|-------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 埼玉県   | 1,154 | 2  | 1,646 | 1  | 1,922 | 1  | 2,117 | 1  | 1,890 | 1  | 2,357 | 1  |
| 茨城県   | 1,174 | 1  | 1,485 | 2  | 1,655 | 2  | 1,955 | 2  | 1,869 | 2  | 1,952 | 2  |
| 東京都   | 646   | 3  | 778   | 3  | 904   | 3  | 983   | 3  | 832   | 3  | 945   | 3  |

図-9 県内他市町から宇都宮市への通勤者数の推移(平成 27 年調査県内順位上位 5 位)

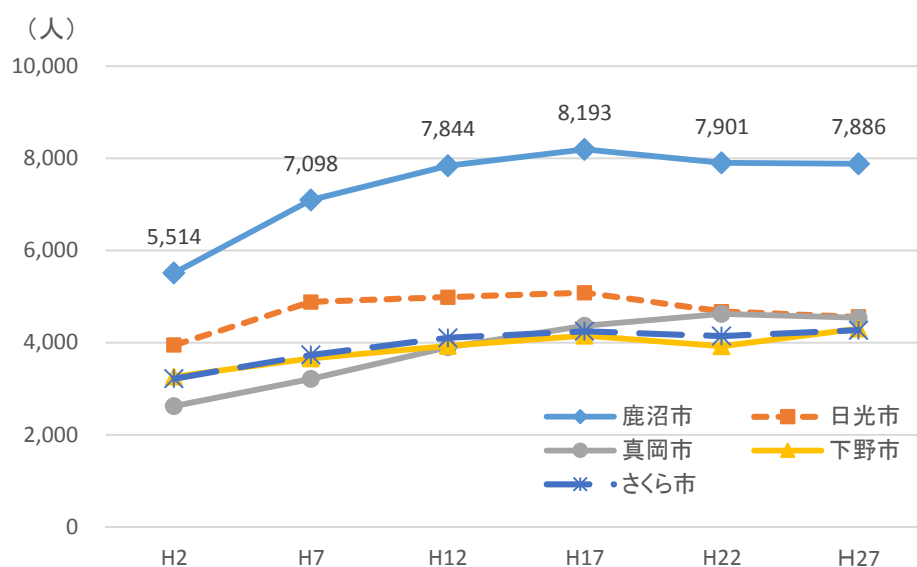
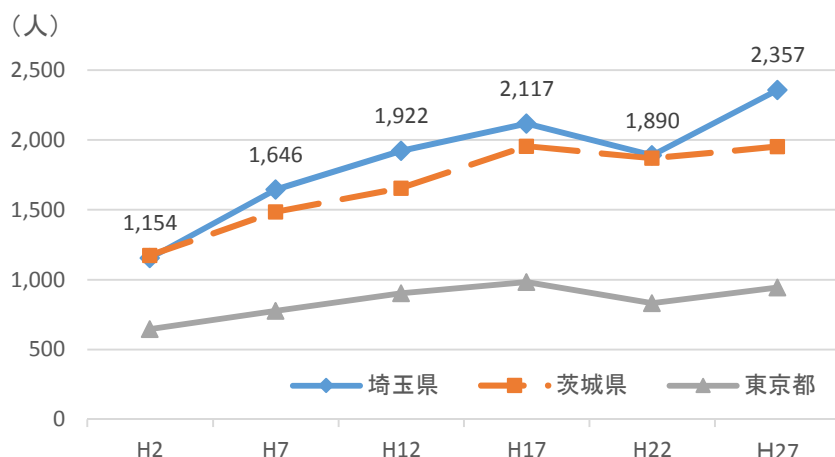


図-10 県外から宇都宮市への通勤者数の推移（平成 27 年調査都道府県順位上位 3 位）



(3) 県内他市町・県外から宇都宮市への通学者の動向

市外から宇都宮市への通学者数の推移を自治体別にみていくと、県内他市では鹿沼市が最多の 1,129 人となっており、平成 7 年以降連続して 1 位となっているが、平成 7 年の 1,600 人をピークに大きく減少している。平成 22 年と比較すると、鹿沼市、日光市は減少している。(表-14、図-11 参照)

県外からの通学者数の推移をみていくと、平成 2 年以降茨城県が 1 位、埼玉県が 2 位となっているが、平成 7 年をピークに減少傾向にある。一方、福島県からの通学者は増加傾向にある。(表-15、図-12 参照)

表-14 県内他市町から宇都宮市への通学者数の推移（平成 27 年調査県内順位上位 5 位）

| 市町名   | H2    | 順位 | H7    | 順位 | H12   | 順位 | H17   | 順位 | H22   | 順位 | H27   | 順位 |
|-------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 鹿沼市   | 1,529 | 2  | 1,600 | 1  | 1,254 | 1  | 1,256 | 1  | 1,183 | 1  | 1,129 | 1  |
| 下野市   | 1,031 | 6  | 1,029 | 5  | 1,056 | 4  | 905   | 3  | 797   | 3  | 874   | 2  |
| 日光市   | 1,200 | 4  | 1,245 | 4  | 1,185 | 2  | 1,053 | 2  | 905   | 2  | 814   | 3  |
| 小山市   | 1,512 | 3  | 1,386 | 3  | 1,080 | 3  | 827   | 4  | 664   | 5  | 735   | 4  |
| 那須塩原市 | 710   | 8  | 688   | 9  | 718   | 8  | 813   | 5  | 652   | 6  | 696   | 5  |

表-15 県外から宇都宮市への通学者数の推移（平成 27 年調査都道府県順位上位 3 位）

| 都道府県名       | H2  | 順位 | H7    | 順位 | H12 | 順位 | H17 | 順位 | H22 | 順位 | H27 | 順位 |
|-------------|-----|----|-------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 茨城県         | 838 | 1  | 1,011 | 1  | 777 | 1  | 638 | 1  | 528 | 1  | 514 | 1  |
| 埼玉県         | 296 | 2  | 525   | 2  | 411 | 2  | 387 | 2  | 267 | 2  | 331 | 2  |
| 福島県         | 16  | 6  | 66    | 6  | 68  | 5  | 91  | 4  | 89  | 3  | 111 | 3  |
| 東京都<br>(参考) | 95  | 3  | 152   | 3  | 106 | 3  | 91  | 4  | 50  | 5  | 51  | 5  |

図-11 県内他市町から宇都宮市への通学者数の推移（平成27年調査県内順位上位5位）

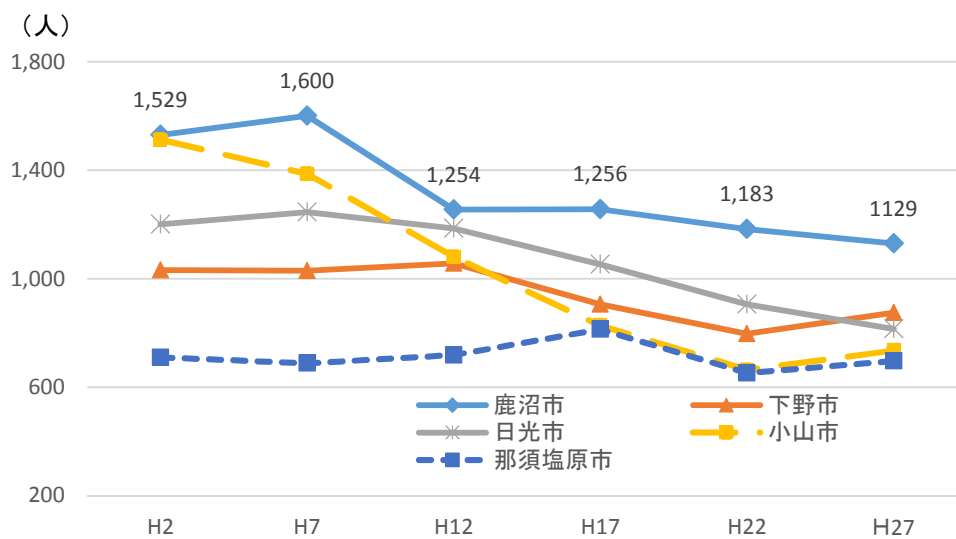
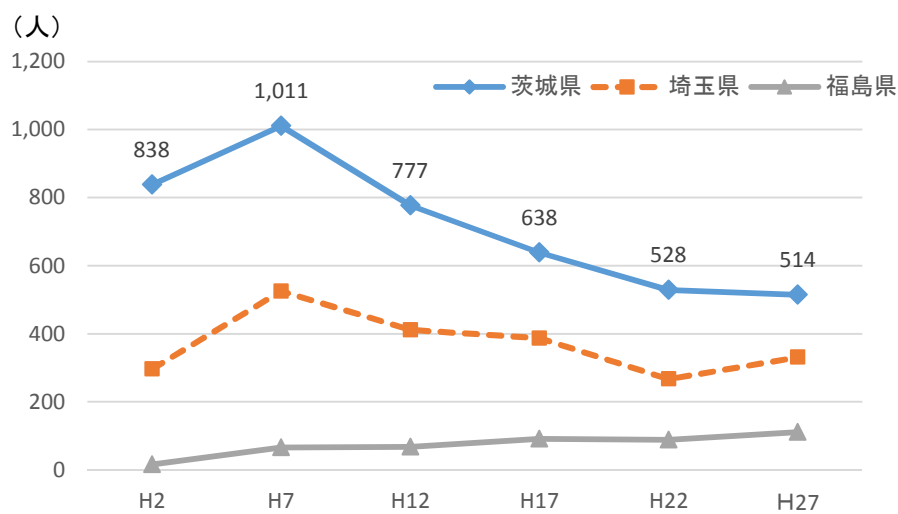


図-12 県外から宇都宮市への通学者数の推移（平成27年調査都道府県順位上位3位）



#### (4) 宇都宮市から県内各市町・県外への通勤・通学者

宇都宮市居住の通勤・通学者のうち、市外への通勤・通学先を自治体別にみると、芳賀町への10,279人(18.0%)が最も多く、次いで鹿沼市への7,159人(12.6%)、真岡市への3,487人(6.1%)の順になっている。県外では、東京都への4,036人(7.1%)が最も多く、次いで埼玉県への2,058人(3.6%)、茨城県への917人(1.6%)の順になっている。(表-16 参照)

県外では、通勤者、通学者ともに東京都が最も多く、県外に通勤、通学している者の約半数を東京都が占めている。(表-17, 表-18 参照)

表-16 自治体別通勤・通学者数と構成比(宇都宮市居住)

| 居住地名  | 流出人数   | 構成比%  | 居住地名     | 流出人数   | 構成比% |
|-------|--------|-------|----------|--------|------|
| 総数    | 56,949 | 100.0 | 益子町      | 309    | 0.5  |
| 芳賀町   | 10,279 | 18.0  | 塩谷町      | 270    | 0.5  |
| 鹿沼市   | 7,159  | 12.6  | 足利市      | 265    | 0.5  |
| 真岡市   | 3,487  | 6.1   | 茂木町      | 176    | 0.3  |
| 上三川町  | 3,214  | 5.6   | 那珂川町     | 119    | 0.2  |
| 小山市   | 3,016  | 5.3   | 野木町      | 80     | 0.1  |
| 下野市   | 2,805  | 4.9   | 那須町      | 79     | 0.1  |
| 高根沢町  | 2,617  | 4.6   | 不詳       | 0      | 0.0  |
| 日光市   | 2,615  | 4.6   | 県内計      | 47,858 | 84.0 |
| 壬生町   | 2,498  | 4.4   | 東京都      | 4,036  | 7.1  |
| さくら市  | 2,324  | 4.1   | 埼玉県      | 2,058  | 3.6  |
| 栃木市   | 2,197  | 3.9   | 茨城県      | 917    | 1.6  |
| 大田原市  | 1,079  | 1.9   | その他の都道府県 | 596    | 1.0  |
| 矢板市   | 877    | 1.5   | 神奈川県     | 446    | 0.8  |
| 那須塩原市 | 688    | 1.2   | 群馬県      | 441    | 0.8  |
| 市貝町   | 661    | 1.2   | 福島県      | 342    | 0.6  |
| 那須烏山市 | 591    | 1.0   | 千葉県      | 255    | 0.4  |
| 佐野市   | 453    | 0.8   | 県外計      | 9,091  | 16.0 |

表-17 自治体別通勤者数(宇都宮市居住)

| 市町名      | 通勤者数   | 構成比%  |
|----------|--------|-------|
| 総数       | 51,861 | 100.0 |
| 芳賀町      | 10,276 | 19.8  |
| 鹿沼市      | 6,848  | 13.2  |
| 真岡市      | 3,251  | 6.3   |
| その他の市町   | 24,503 | 47.2  |
| 県内計      | 44,878 | 86.5  |
| 東京都      | 3,065  | 5.9   |
| 埼玉県      | 1,475  | 2.8   |
| 茨城県      | 870    | 1.7   |
| その他の都道府県 | 1,573  | 3.0   |
| 県外計      | 6,983  | 13.5  |

表-18 自治体別通学者数(宇都宮市居住)

| 市町名      | 通学者数  | 構成比%  |
|----------|-------|-------|
| 総数       | 5,088 | 100.0 |
| 小山市      | 687   | 13.5  |
| 栃木市      | 328   | 6.4   |
| 下野市      | 320   | 6.3   |
| その他の市町   | 1,645 | 32.3  |
| 県内計      | 2,980 | 58.6  |
| 東京都      | 971   | 19.1  |
| 埼玉県      | 583   | 11.5  |
| 神奈川県     | 128   | 2.5   |
| その他の都道府県 | 426   | 8.4   |
| 県外計      | 2,108 | 41.4  |

※表-17, 表-18は県内・県外ともに上位3位まで

(5) 宇都宮市から県内他市町・県外への通勤者の動向

宇都宮市から市外への通勤者数の推移を自治体別にみていくと、県内他市町では、芳賀町への通勤者の増加が続き、平成27年では10,276人となっている。

平成27年では日光市が5位となり、上位5市すべてにおいて増加となっている。(表-19参照、図-13参照)

県外についてみていくと、平成2年以降順位に変動はなく、上位3都道府県は東京都と埼玉県、茨城県となっている。通勤者数は、平成22年と比べ増加しており、平成2年以降微増が続いている状態である。(表-20参照、図-14参照)

表-19 宇都宮市から県内他市町への通勤者数の推移(平成27年調査県内順位上位5位)

| 市町名  | H2    | 順位 | H7    | 順位 | H12   | 順位 | H17   | 順位 | H22   | 順位 | H27    | 順位 |
|------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|--------|----|
| 芳賀町  | 3,850 | 2  | 5,461 | 1  | 7,270 | 1  | 8,926 | 1  | 9,529 | 1  | 10,276 | 1  |
| 鹿沼市  | 4,828 | 1  | 5,390 | 2  | 5,913 | 2  | 6,140 | 2  | 6,337 | 2  | 6,848  | 2  |
| 真岡市  | 2,217 | 4  | 2,480 | 4  | 2,591 | 3  | 3,202 | 3  | 3,046 | 3  | 3,251  | 3  |
| 上三川町 | 2,941 | 3  | 2,760 | 3  | 2,523 | 4  | 3,144 | 4  | 3,029 | 4  | 3,151  | 4  |
| 日光市  | 1,781 | 7  | 1,961 | 7  | 2,300 | 6  | 2,371 | 6  | 2,447 | 6  | 2,549  | 5  |

表-20 宇都宮市から県外への通勤者数の推移(平成27年調査都道府県順位上位3位)

| 都道府県名 | H2    | 順位 | H7    | 順位 | H12   | 順位 | H17   | 順位 | H22   | 順位 | H27   | 順位 |
|-------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
| 東京都   | 1,911 | 1  | 2,599 | 1  | 2,753 | 1  | 2,836 | 1  | 2,834 | 1  | 3,065 | 1  |
| 埼玉県   | 772   | 2  | 1,087 | 2  | 1,276 | 2  | 1,388 | 2  | 1,369 | 2  | 1,475 | 2  |
| 茨城県   | 557   | 3  | 618   | 3  | 698   | 3  | 717   | 3  | 767   | 3  | 870   | 3  |

図-13 宇都宮市から県内他市町への通勤者数の推移(平成27年調査県内順位上位5位)

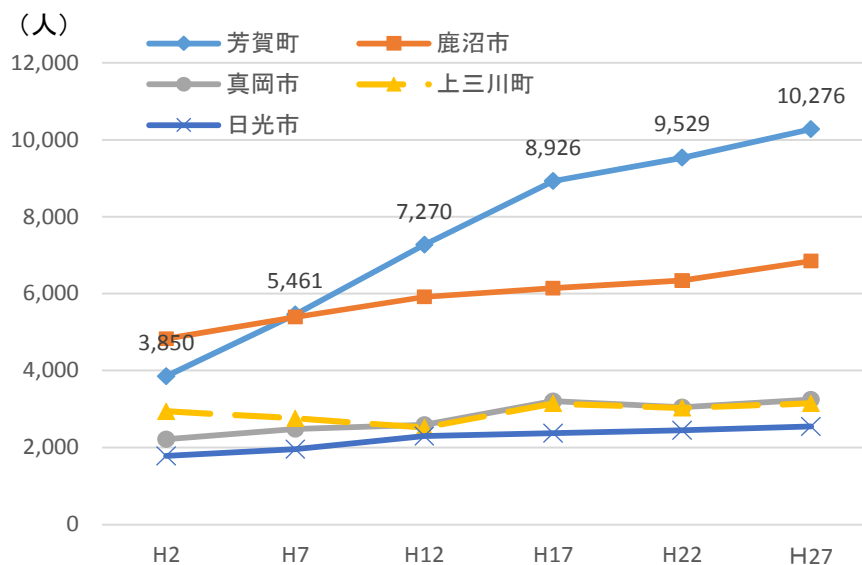
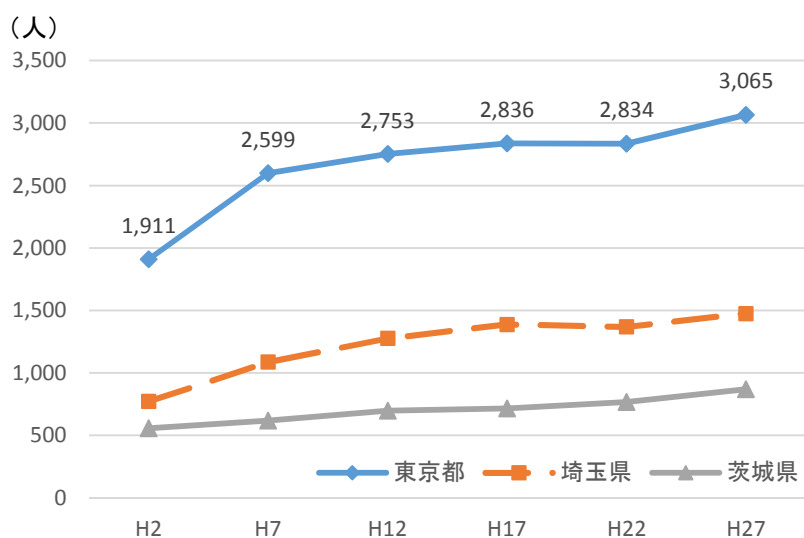




図-14 宇都宮市からの通勤者数の推移（平成 27 年調査都道府県順位上位 3 位）



(6) 県内他市町・県外への通学者の動向（平成 2 年調査以降）

宇都宮市から市外への通学者数の推移を自治体別にみていくと、県内では小山市が最多の 687 人で、平成 7 年以降連続して 1 位となっている。

また、大田原市への通学者数が増加し続け 5 位になったのに対し、鹿沼市は平成 2 年と比較し、約半数程度に減少している。（表-21、図-15 参照）

県外への通学者数の推移をみていくと、東京都と埼玉県への通学者が上位 2 位を占め続け、上位 3 都県とも平成 12 年で減少した。東京都は平成 12 年以降増加し続けているが、他 2 市は平成 22 年で一度減少し、平成 27 年では再び増加に転じた。（表-22、図-16 参照）

表-21 宇都宮市から県内他市町への通学者数の推移（平成 27 年調査県内順位上位 5 位）

| 市町名  | H2  | 順位 | H7  | 順位 | H12 | 順位 | H17 | 順位 | H22 | 順位 | H27 | 順位 |
|------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 小山市  | 539 | 2  | 709 | 1  | 718 | 1  | 707 | 1  | 713 | 1  | 687 | 1  |
| 栃木市  | 194 | 7  | 210 | 3  | 226 | 3  | 263 | 2  | 266 | 3  | 328 | 2  |
| 下野市  | 197 | 6  | 139 | 8  | 92  | 10 | 121 | 8  | 236 | 4  | 320 | 3  |
| 鹿沼市  | 614 | 1  | 473 | 2  | 315 | 2  | 239 | 3  | 291 | 2  | 311 | 4  |
| 大田原市 | 7   | 17 | 33  | 15 | 108 | 7  | 150 | 6  | 175 | 7  | 247 | 5  |

表-22 宇都宮市から県外への通学者数の推移（平成 27 年調査都道府県順位上位 3 位）

| 都道府県名 | H2  | 順位 | H7    | 順位 | H12 | 順位 | H17 | 順位 | H22 | 順位 | H27 | 順位 |
|-------|-----|----|-------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 東京都   | 858 | 1  | 1,024 | 1  | 801 | 1  | 883 | 1  | 891 | 1  | 971 | 1  |
| 埼玉県   | 436 | 2  | 657   | 2  | 472 | 2  | 500 | 2  | 475 | 2  | 583 | 2  |
| 神奈川県  | 50  | 4  | 100   | 3  | 70  | 3  | 96  | 3  | 92  | 3  | 128 | 3  |

図-15 宇都宮市から県内各市町への通学者数の推移（平成27年調査県内順位上位5位）

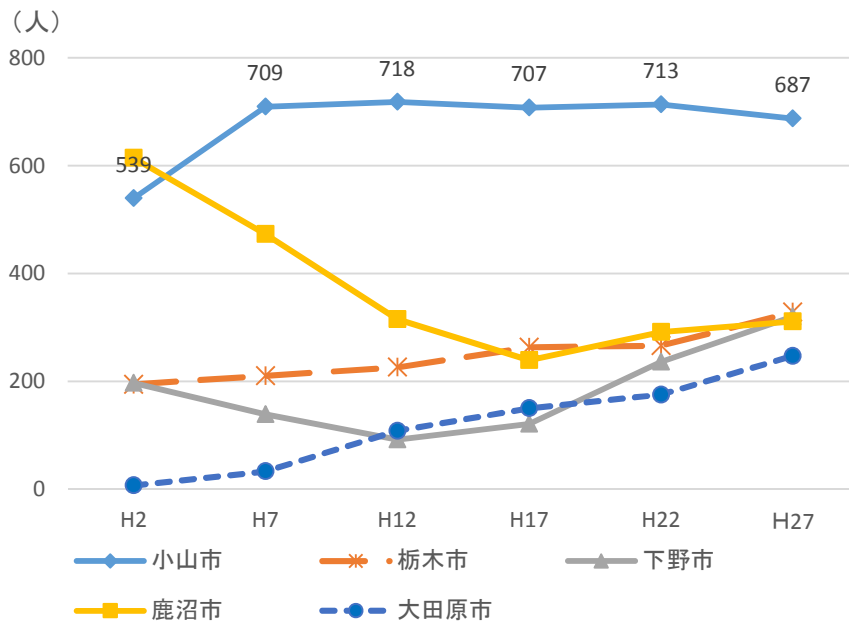
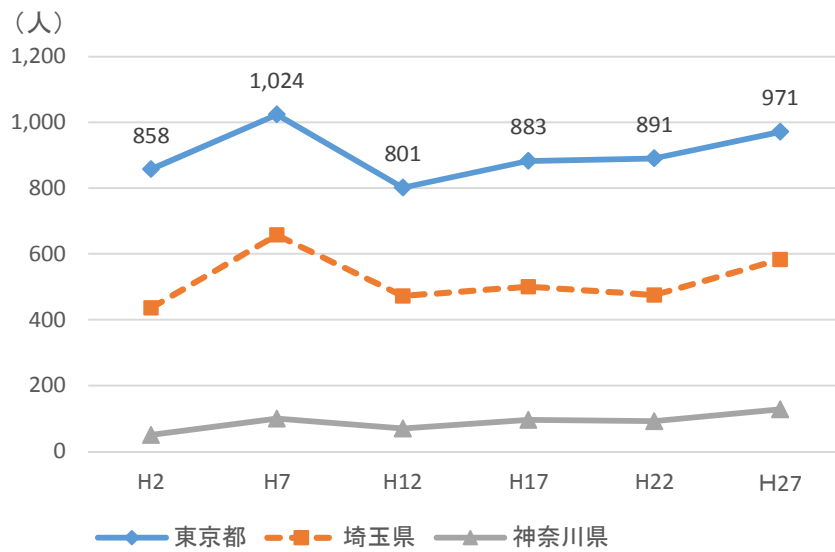


図-16 宇都宮市から県外への通学者数の推移（平成27年調査都道府県順位上位3位）



## 5. 年齢別就業者

### (1) 年代別 常住地・従業地別就業者数

宇都宮市居住の就業者数を年代別にみていくと、男性については、自宅就業者は60歳代が最も多く、他県で従業及び他県からの通勤はともに40歳～50歳代が最も多くなっている。

(表-23, 図-16 参照)

女性については、自宅就業者は男性と同様に60歳代が最も多くなっているが、他県で従業及び他県からの通勤は20歳～30歳代が最も多くなっている。(表-24, 図-17 参照)

表-23 常住地・従業地別 年代別就業者数（男性） 平成27年調査

| 年齢区分<br>(男性) | 従業地(宇都宮市常住) |        |        |                |       | 常住地(他市区町村常住)  |            |
|--------------|-------------|--------|--------|----------------|-------|---------------|------------|
|              | 総数※         | 自宅     | 自宅外    | 県内他市区<br>町村で従業 | 他県で従業 | 県内他市町<br>から通勤 | 他県から<br>通勤 |
| 総数           | 141,638     | 11,526 | 82,546 | 33,635         | 5,750 | 36,073        | 6,440      |
| 15～19歳       | 1,496       | 53     | 1,108  | 245            | 48    | 426           | 43         |
| 20～29歳       | 19,051      | 411    | 12,169 | 4,535          | 362   | 4,869         | 633        |
| 30～39歳       | 31,627      | 1,092  | 18,211 | 9,241          | 870   | 7,776         | 1,190      |
| 40～49歳       | 35,205      | 1,792  | 20,590 | 9,193          | 1,867 | 9,078         | 2,060      |
| 50～59歳       | 27,098      | 1,887  | 15,256 | 7,111          | 1,801 | 8,257         | 1,842      |
| 60～69歳       | 20,211      | 3,609  | 12,058 | 2,908          | 723   | 5,166         | 560        |
| 70～79歳       | 5,830       | 2,078  | 2,826  | 371            | 65    | 478           | 102        |
| 80歳以上        | 1,120       | 604    | 328    | 31             | 14    | 23            | 10         |
| (再掲)65歳以上    | 15,635      | 4,686  | 8,192  | 1,336          | 192   | 2,012         | 322        |
| (再掲)65～74    | 12,647      | 3,244  | 7,141  | 1,228          | 161   | 1,906         | 290        |
| (再掲)75歳以上    | 2,988       | 1,442  | 1,051  | 108            | 31    | 106           | 32         |

※従業地不詳を含む

図-16 常住地・従業地別 年代別構成比（男性就業者）

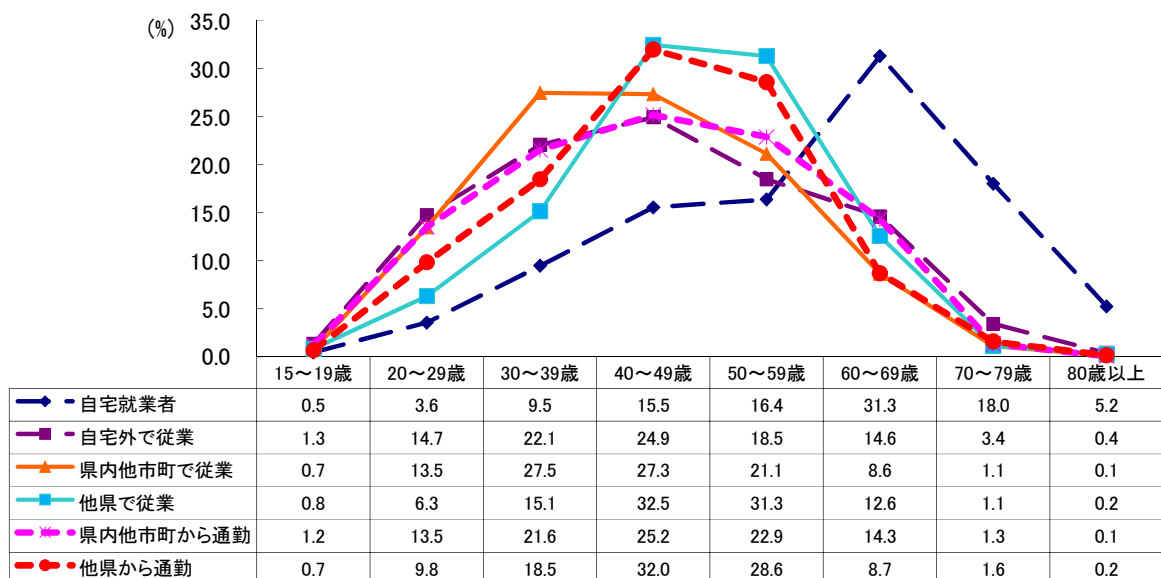
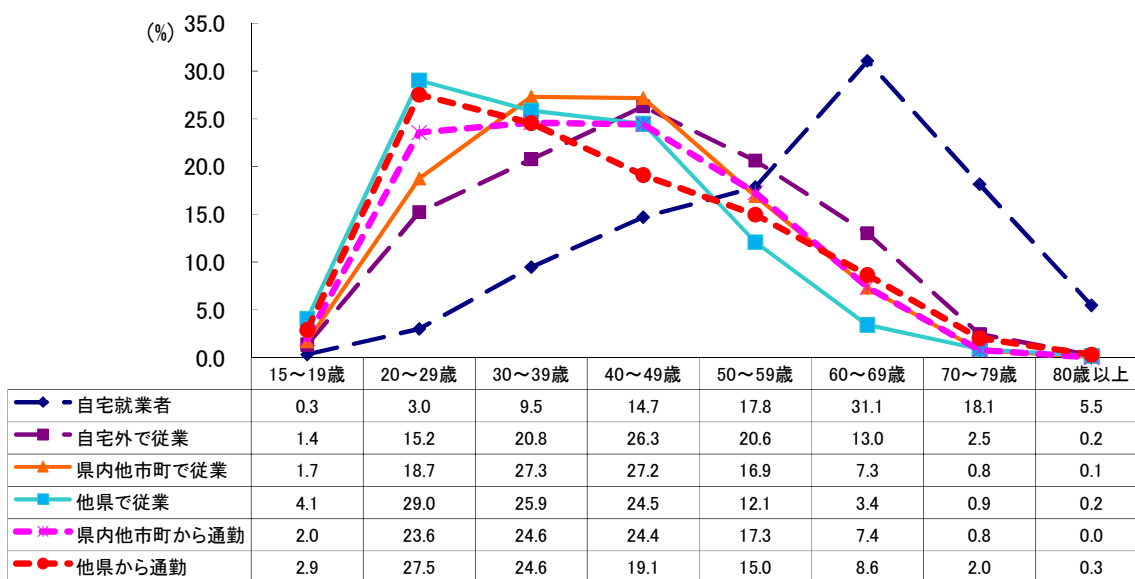


表-24 常住地・従業地別 年代別就業者数（女性） 平成27年調査

| 年齢区分<br>(女性) | 従業地(宇都宮市常住) |       |        |            |       | 常住地(他市区町村常住) |        |
|--------------|-------------|-------|--------|------------|-------|--------------|--------|
|              | 総数※         | 自宅就業者 | 自宅外で従業 | 県内他市区町村で従業 | 他県で従業 | 県内他市区町村から通勤  | 他県から通勤 |
| 総数           | 100,364     | 9,400 | 73,874 | 11,243     | 1,233 | 21,097       | 1,042  |
| 15～19歳       | 1,302       | 30    | 999    | 189        | 50    | 416          | 30     |
| 20～29歳       | 14,864      | 281   | 11,249 | 2,108      | 358   | 4,974        | 287    |
| 30～39歳       | 20,775      | 890   | 15,340 | 3,072      | 319   | 5,193        | 256    |
| 40～49歳       | 25,081      | 1,382 | 19,436 | 3,057      | 302   | 5,155        | 199    |
| 50～59歳       | 19,497      | 1,677 | 15,233 | 1,899      | 149   | 3,642        | 156    |
| 60～69歳       | 14,023      | 2,922 | 9,614  | 823        | 42    | 1,553        | 90     |
| 70～79歳       | 3,991       | 1,705 | 1,821  | 86         | 11    | 164          | 21     |
| 80歳以上        | 831         | 513   | 182    | 9          | 2     | -            | 3      |
| (再掲)65歳以上    | 10,815      | 3,775 | 5,840  | 364        | 26    | 663          | 67     |
| (再掲)65～74    | 8,691       | 2,589 | 5,206  | 339        | 21    | 624          | 63     |
| (再掲)75歳以上    | 2,124       | 1,186 | 634    | 25         | 5     | 39           | 4      |

※従業地不詳を含む

図-17 常住地・従業地別 年代別構成比（女性就業者）



## (2) 年齢5歳階級別就業者の推移

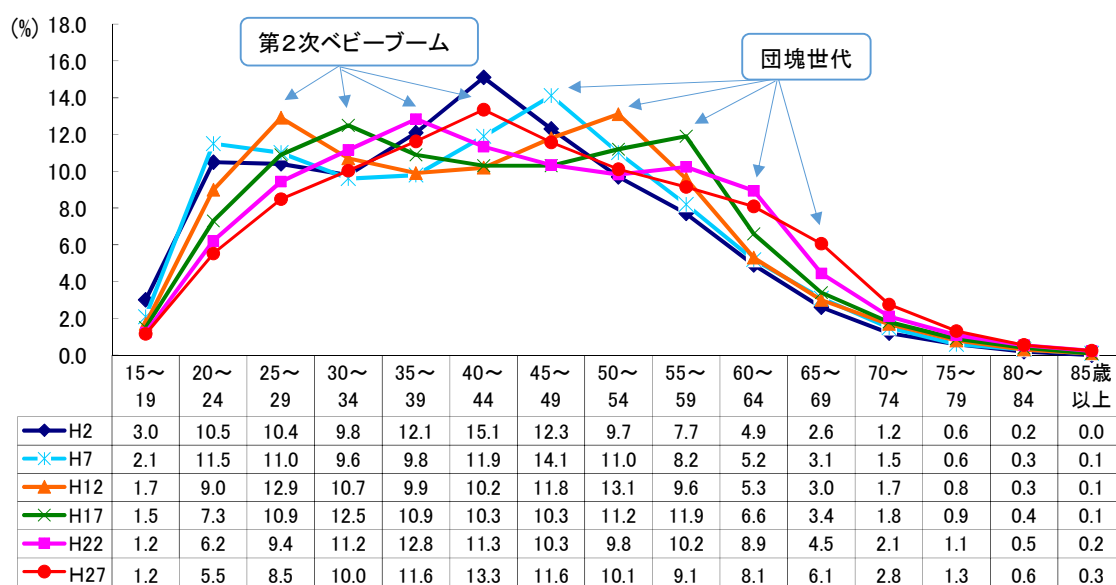
宇都宮市に居住する就業者を5歳階級別にみていくと、40歳代前半が32,285人(13.3%)と最も多く、次いで30歳代後半が28,128人(11.6%)となっている。

平成2年からの推移をみていくと、20歳代が減少し続けているのに対し、65歳以上の就業者が増加し続けている。(表-25、図-18参照)

表-25 年齢5歳階級別 就業者数の推移(総数)

| 年齢区分      | H2      | H7      | H12     | H17     | H22     | H27     |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総数        | 237,486 | 248,835 | 249,151 | 244,206 | 241,950 | 242,002 |
| 15～19     | 7,011   | 5,180   | 4,237   | 3,626   | 2,983   | 2,798   |
| 20～24     | 24,964  | 28,507  | 22,328  | 17,748  | 15,024  | 13,377  |
| 25～29     | 24,790  | 27,350  | 32,101  | 26,551  | 22,836  | 20,538  |
| 30～34     | 23,342  | 23,849  | 26,685  | 30,508  | 27,003  | 24,274  |
| 35～39     | 28,677  | 24,321  | 24,784  | 26,701  | 31,054  | 28,128  |
| 40～44     | 35,762  | 29,685  | 25,532  | 25,267  | 27,439  | 32,285  |
| 45～49     | 29,186  | 35,205  | 29,282  | 25,105  | 25,041  | 28,001  |
| 50～54     | 22,970  | 27,319  | 32,735  | 27,390  | 23,758  | 24,453  |
| 55～59     | 18,247  | 20,454  | 23,824  | 29,117  | 24,773  | 22,142  |
| 60～64     | 11,594  | 12,946  | 13,112  | 16,110  | 21,622  | 19,556  |
| 65～69     | 6,171   | 7,793   | 7,562   | 8,297   | 10,767  | 14,678  |
| 70～74     | 2,859   | 3,826   | 4,116   | 4,343   | 5,114   | 6,660   |
| 75～79     | 1,382   | 1,598   | 1,896   | 2,233   | 2,636   | 3,161   |
| 80～84     | 424     | 634     | 682     | 888     | 1,317   | 1,337   |
| 85歳以上     | 107     | 168     | 275     | 322     | 583     | 614     |
| (再掲)65歳以上 | 10,943  | 14,019  | 14,531  | 16,083  | 20,417  | 26,450  |
| (再掲)65～74 | 9,030   | 11,619  | 11,678  | 12,710  | 15,881  | 21,338  |
| (再掲)75歳以上 | 1,913   | 2,400   | 2,853   | 3,443   | 4,536   | 5,112   |

図-18 年齢5歳階級別 就業者構成比の推移(総数)



《男性》

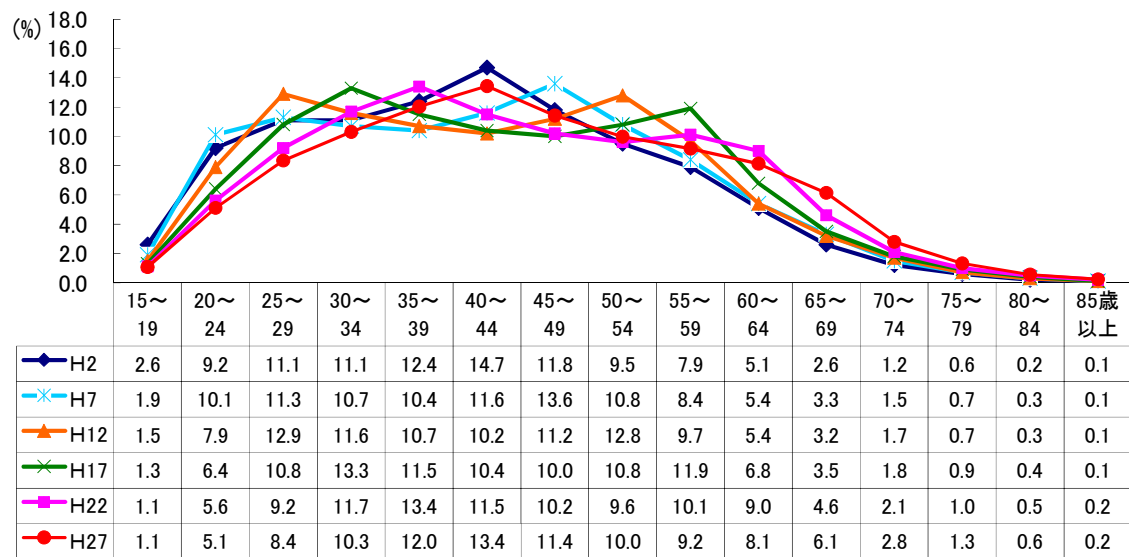
宇都宮市に居住する男性就業者を5歳階級別にみていくと、40歳代前半が19,035人（13.4%）と最も多く、次いで30歳代後半が17,032人（12.0%）となっている。

平成2年調査からの推移をみていくと、20歳代が減少し続けているのに対し、65歳以上の就業者が増加し続けている。（表-26、図-19参照）

表-26 年齢5歳階級別 就業者数の推移（男性）

| 年齢区分      | H2      | H7      | H12     | H17     | H22     | H27     |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総数        | 145,279 | 151,583 | 150,922 | 146,458 | 142,742 | 141,638 |
| 15～19     | 3,811   | 2,875   | 2,237   | 1,886   | 1,602   | 1,496   |
| 20～24     | 13,332  | 15,380  | 11,928  | 9,337   | 7,952   | 7,222   |
| 25～29     | 16,109  | 17,132  | 19,542  | 15,817  | 13,198  | 11,829  |
| 30～34     | 16,082  | 16,274  | 17,541  | 19,421  | 16,675  | 14,595  |
| 35～39     | 18,067  | 15,776  | 16,104  | 16,890  | 19,194  | 17,032  |
| 40～44     | 21,298  | 17,604  | 15,449  | 15,298  | 16,459  | 19,035  |
| 45～49     | 17,139  | 20,547  | 16,904  | 14,648  | 14,587  | 16,170  |
| 50～54     | 13,792  | 16,357  | 19,321  | 15,855  | 13,734  | 14,127  |
| 55～59     | 11,440  | 12,685  | 14,710  | 17,439  | 14,483  | 12,971  |
| 60～64     | 7,390   | 8,151   | 8,154   | 9,986   | 12,801  | 11,526  |
| 65～69     | 3,708   | 4,952   | 4,818   | 5,199   | 6,497   | 8,685   |
| 70～74     | 1,809   | 2,301   | 2,536   | 2,630   | 3,065   | 3,962   |
| 75～79     | 937     | 996     | 1,096   | 1,341   | 1,494   | 1,868   |
| 80～84     | 291     | 439     | 406     | 523     | 706     | 787     |
| 85歳以上     | 74      | 114     | 176     | 188     | 295     | 333     |
| (再掲)65歳以上 | 6,819   | 8,802   | 9,032   | 9,881   | 12,057  | 15,635  |
| (再掲)65～74 | 5,517   | 7,253   | 7,354   | 7,829   | 9,562   | 12,647  |
| (再掲)75歳以上 | 1,302   | 1,549   | 1,678   | 2,052   | 2,495   | 2,988   |

図-19 年齢5歳階級別 就業者構成比の推移（男性）



《女性》

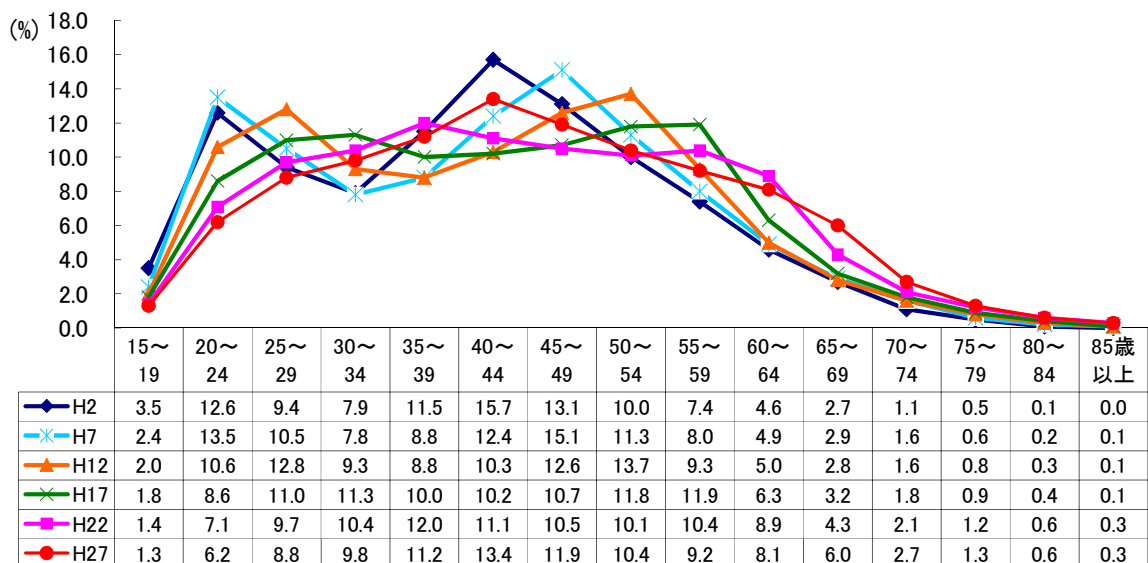
宇都宮市に居住する女性就業者を5歳階級別にみていくと、40歳代前半が13,250人(13.4%)と最も多く、次いで40歳代後半が11,831人(11.9%)となっている。

平成2年からの推移をみていくと、20歳代が減少し続けているのに対し、65歳以上の就業者が増加し続けている。(表-27, 図-20 参照)

表-27 年齢5歳階級別 就業者数の推移 (女性)

| 年齢区分      | H2     | H7     | H12    | H17    | H22    | H27     |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 総数        | 92,207 | 97,252 | 98,229 | 97,748 | 99,208 | 100,364 |
| 15～19     | 3,200  | 2,305  | 2,000  | 1,740  | 1,381  | 1,302   |
| 20～24     | 11,632 | 13,127 | 10,400 | 8,411  | 7,072  | 6,155   |
| 25～29     | 8,681  | 10,218 | 12,559 | 10,734 | 9,638  | 8,709   |
| 30～34     | 7,260  | 7,575  | 9,144  | 11,087 | 10,328 | 9,679   |
| 35～39     | 10,610 | 8,545  | 8,680  | 9,811  | 11,860 | 11,096  |
| 40～44     | 14,464 | 12,081 | 10,083 | 9,969  | 10,980 | 13,250  |
| 45～49     | 12,047 | 14,658 | 12,378 | 10,457 | 10,454 | 11,831  |
| 50～54     | 9,178  | 10,962 | 13,414 | 11,535 | 10,024 | 10,326  |
| 55～59     | 6,807  | 7,769  | 9,114  | 11,678 | 10,290 | 9,171   |
| 60～64     | 4,204  | 4,795  | 4,958  | 6,124  | 8,821  | 8,030   |
| 65～69     | 2,463  | 2,841  | 2,744  | 3,098  | 4,270  | 5,993   |
| 70～74     | 1,050  | 1,525  | 1,580  | 1,713  | 2,049  | 2,698   |
| 75～79     | 445    | 602    | 800    | 892    | 1,142  | 1,293   |
| 80～84     | 133    | 195    | 276    | 365    | 611    | 550     |
| 85歳以上     | 33     | 54     | 99     | 134    | 288    | 281     |
| (再掲)65歳以上 | 4,124  | 5,217  | 5,499  | 6,202  | 8,360  | 10,815  |
| (再掲)65～74 | 3,513  | 4,366  | 4,324  | 4,811  | 6,319  | 8,691   |
| (再掲)75歳以上 | 611    | 851    | 1,175  | 1,391  | 2,041  | 2,124   |

図-20 年齢別5歳階級別 就業者構成比の推移 (女性)



## 6. 産業大分類別就業者

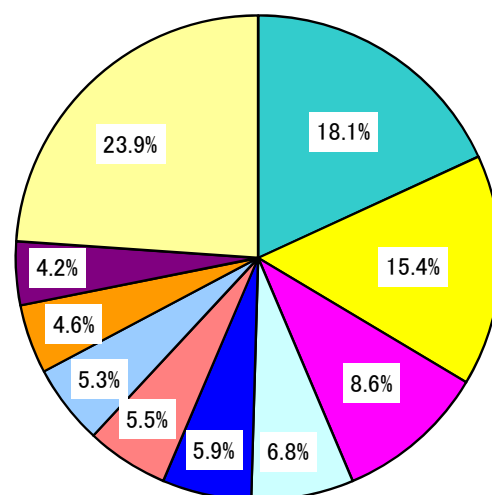
### (1) 宇都宮市居住の就業者（総数）

宇都宮市に居住する就業者を産業大分類別にみていくと、製造業就業者が 43,894 人（18.1%）と最も多く、次いで卸売業、小売業就業者が 37,388 人（15.4%）となっている。（表-28、図-21 参照）

表-28 産業大分類別 15 歳以上就業者数（宇都宮市居住者）

| 産業大分類 |                   | 総数(人)   | 構成比(%) |
|-------|-------------------|---------|--------|
| 総 数   |                   | 242,002 | 100.0  |
| 第1次産業 |                   | 5,788   | 2.4    |
| A     | 農業, 林業            | 5,767   | 2.4    |
|       | うち農業              | 5,652   | 2.3    |
| B     | 漁業                | 21      | 0.0    |
| 第2次産業 |                   | 60,456  | 25.0   |
| C     | 鉱業, 採石業, 砂利採取業    | 55      | 0.0    |
| D     | 建設業               | 16,507  | 6.8    |
| E     | 製造業               | 43,894  | 18.1   |
| 第3次産業 |                   | 159,399 | 65.9   |
| F     | 電気・ガス・熱供給・水道業     | 1,097   | 0.5    |
| G     | 情報通信業             | 4,068   | 1.7    |
| H     | 運輸業, 郵便業          | 10,233  | 4.2    |
| I     | 卸売業, 小売業          | 37,388  | 15.4   |
| J     | 金融業, 保険業          | 6,258   | 2.6    |
| K     | 不動産業, 物品賃貸業       | 4,518   | 1.9    |
| L     | 学術研究, 専門・技術サービス業  | 14,386  | 5.9    |
| M     | 宿泊業, 飲食サービス業      | 12,913  | 5.3    |
| N     | 生活関連サービス業, 娯楽業    | 8,646   | 3.6    |
| O     | 教育, 学習支援業         | 11,215  | 4.6    |
| P     | 医療, 福祉            | 24,306  | 10.0   |
| Q     | 複合サービス事業          | 1,638   | 0.7    |
| R     | サービス業(他に分類されないもの) | 13,315  | 5.5    |
| S     | 公務(他に分類されるものを除く)  | 9,418   | 3.9    |
| T     | 分類不能の産業           | 16,359  | 6.8    |

図-21 産業大分類別 15 歳以上就業者数



- 製造業
- 卸売業, 小売業
- 医療, 福祉
- 建設業
- 学術研究, 専門・技術サービス業
- サービス業(他に分類されないもの)
- 宿泊業, 飲食サービス業
- 教育, 学習支援業
- 運輸業, 郵便業
- その他

※ 人数, 構成比ともに, 総数は「T分類不能の産業」を含む。



(2) 宇都宮市居住の就業者（男女別）

宇都宮市に居住する就業者を産業大分類別・男女別にみていくと、男性では製造業が33,252人（23.5%）と最も多く、次いで卸売業・小売業が18,160人（12.8%）の順となっている。

女性では卸売業・小売業が19,228人（19.2%）と最も多く、次いで医療・福祉業が18,103人（18.0%）の順となっている。

男女間で構成比に大きな差のある主な産業は製造業と医療・福祉業となっている。製造業は男性が23.5%なのに対し、女性は10.6%となっており、医療・福祉業は男性が4.4%なのに対し、女性は18.0%となっている。

（表-29 参照）

表-29 産業大分類別 男女別 15歳以上就業者数（宇都宮市居住者）

| 産業大分類 |                   | 男性      | 構成比(%) | 女性      | 構成比(%) |
|-------|-------------------|---------|--------|---------|--------|
| 総数    |                   | 141,638 | 100.0  | 100,364 | 100.0  |
| 第1次産業 |                   | 3,357   | 2.4    | 2,431   | 2.4    |
| A     | 農業, 林業            | 3,341   | 2.4    | 2,426   | 2.4    |
|       | うち農業              | 3,245   | 2.3    | 2,407   | 2.4    |
| B     | 漁業                | 16      | 0.0    | 5       | 0.0    |
| 第2次産業 |                   | 46,858  | 33.1   | 13,598  | 13.5   |
| C     | 鉱業, 採石業, 砂利採取業    | 43      | 0.0    | 12      | 0.0    |
| D     | 建設業               | 13,563  | 9.6    | 2,944   | 2.9    |
| E     | 製造業               | 33,252  | 23.5   | 10,642  | 10.6   |
| 第3次産業 |                   | 81,695  | 57.7   | 77,704  | 77.4   |
| F     | 電気・ガス・熱供給・水道業     | 890     | 0.6    | 207     | 0.2    |
| G     | 情報通信業             | 3,010   | 2.1    | 1,058   | 1.1    |
| H     | 運輸業, 郵便業          | 8,083   | 5.7    | 2,150   | 2.1    |
| I     | 卸売業, 小売業          | 18,160  | 12.8   | 19,228  | 19.2   |
| J     | 金融業, 保険業          | 2,837   | 2.0    | 3,421   | 3.4    |
| K     | 不動産業, 物品賃貸業       | 2,508   | 1.8    | 2,010   | 2.0    |
| L     | 学術研究, 専門・技術サービス業  | 11,334  | 8.0    | 3,052   | 3.0    |
| M     | 宿泊業, 飲食サービス業      | 4,440   | 3.1    | 8,473   | 8.4    |
| N     | 生活関連サービス業, 娯楽業    | 3,401   | 2.4    | 5,245   | 5.2    |
| O     | 教育, 学習支援業         | 4,692   | 3.3    | 6,523   | 6.5    |
| P     | 医療, 福祉            | 6,203   | 4.4    | 18,103  | 18.0   |
| Q     | 複合サービス事業          | 937     | 0.7    | 701     | 0.7    |
| R     | サービス業(他に分類されないもの) | 8,308   | 5.9    | 5,007   | 5.0    |
| S     | 公務(他に分類されるものを除く)  | 6,892   | 4.9    | 2,526   | 2.5    |
| T     | 分類不能の産業           | 9,728   | 6.9    | 6,631   | 6.6    |

※人数, 構成比ともに, 総数は「T分類不能の産業」を含む

### (3) 就業者構成比 中核市との比較

産業3分類の本市構成比を中核市の平均構成比と比較すると、第1次、第2次産業は中核市の平均値（比較指数=1.0）付近で、第3次産業は中核市平均よりやや低くなっている。

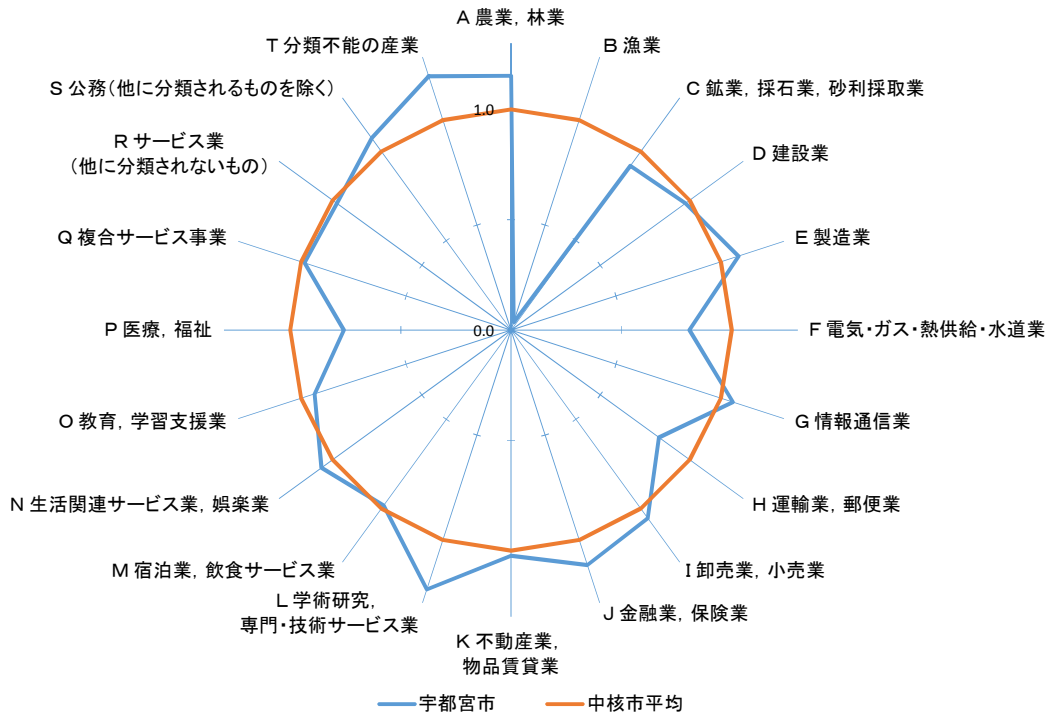
産業大分類別の構成比をみていくと、中核市平均を上回る構成比となっている主な産業は、農業、林業（2.3%）、製造業（15.4%）、卸売業、小売業（17.4%）、学術研究、専門・技術サービス業（3.7%）などとなっている。特に学術研究、専門・技術サービス業は中核市48市中5位と上位に位置している。

一方中核市平均を大きく下回る構成比となっている産業は、運輸業、郵便業（4.3%）、医療・福祉（10.3%）となっている。（表-30、図-22 参照）

表-30 産業大分類別就業者構成比 中核市比較（中核市=48）

| 産業大分類 |                   | 宇都宮市<br>(%) | 中核市平均<br>(%) | 比較指数<br>(中核平均<br>=1.0) | 中核市<br>ランキング |
|-------|-------------------|-------------|--------------|------------------------|--------------|
| 第1次産業 |                   | 2.3         | 2.1          | 1.1                    | 20           |
| A     | 農業、林業             | 2.3         | 2.0          | 1.2                    | 17           |
| B     | 漁業                | 0.0         | 0.2          | 0.0                    | 34           |
| 第2次産業 |                   | 23.0        | 22.0         | 1.0                    | 16           |
| C     | 鉱業、採石業、砂利採取業      | 0.0         | 0.0          | 0.9                    | 18           |
| D     | 建設業               | 7.7         | 7.8          | 1.0                    | 30           |
| E     | 製造業               | 15.4        | 14.2         | 1.1                    | 16           |
| 第3次産業 |                   | 68.3        | 70.5         | 1.0                    | 34           |
| F     | 電気・ガス・熱供給・水道業     | 0.4         | 0.5          | 0.8                    | 35           |
| G     | 情報通信業             | 1.9         | 1.8          | 1.1                    | 18           |
| H     | 運輸業、郵便業           | 4.3         | 5.2          | 0.8                    | 37           |
| I     | 卸売業、小売業           | 17.4        | 16.5         | 1.1                    | 16           |
| J     | 金融業、保険業           | 3.0         | 2.7          | 1.1                    | 17           |
| K     | 不動産業、物品賃貸業        | 2.1         | 2.0          | 1.0                    | 16           |
| L     | 学術研究、専門・技術サービス業   | 3.7         | 3.0          | 1.2                    | 5            |
| M     | 宿泊業、飲食サービス業       | 5.6         | 5.7          | 1.0                    | 21           |
| N     | 生活関連サービス業、娯楽業     | 3.9         | 3.7          | 1.1                    | 16           |
| O     | 教育、学習支援業          | 4.6         | 4.9          | 0.9                    | 29           |
| P     | 医療、福祉             | 10.3        | 13.6         | 0.8                    | 46           |
| Q     | 複合サービス事業          | 0.7         | 0.7          | 1.0                    | 25           |
| R     | サービス業（他に分類されないもの） | 6.0         | 6.2          | 1.0                    | 30           |
| S     | 公務（他に分類されるものを除く）  | 4.2         | 3.9          | 1.1                    | 20           |
| T     | 分類不能の産業           | 6.5         | 5.3          | 1.2                    | 14           |

図-22 産業大分類別就業者構成比 中核市比較（中核市平均=1.0）



(4) 市外居住で宇都宮市に通勤する就業者（総数）

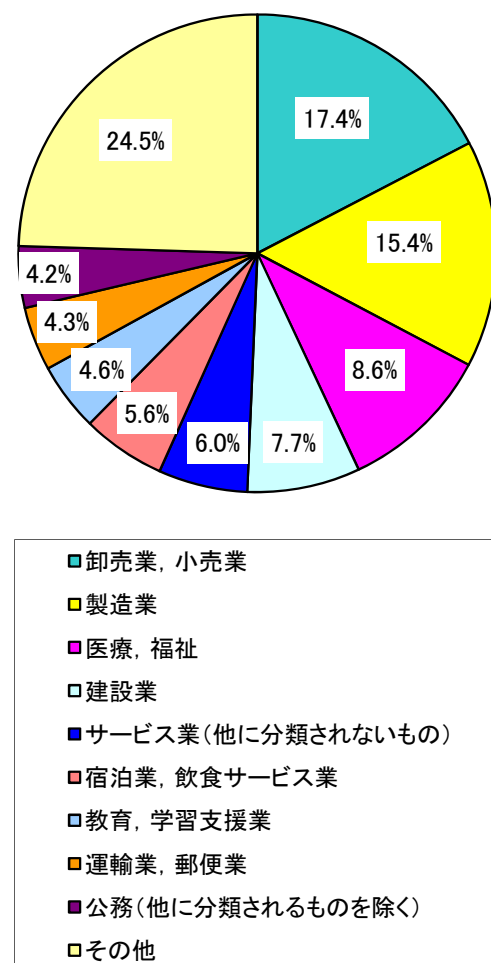
市外に居住し、宇都宮市に通勤している就業者を産業大分類別にみていくと、卸売・小売業就業者が 44,251 人 (17.4%) と最も多く、次いで、製造業就業者が 39,138 人 (15.4%) となった。宇都宮市から通勤している就業者の産業大分類別の構成では、学術研究、専門・技術サービス業が比較的多い 5.9% だったのに対し、宇都宮市へ通勤している就業者では 3.7% を占めるのみとなった。(表-31, 図-23 参照)

表-31 産業大分類別 15 歳以上就業者数（市外居住で宇都宮市への通勤者）

| 産業大分類 |                   | 総数      | 構成比(%) |
|-------|-------------------|---------|--------|
| 総数    |                   | 254,797 | 100.0  |
| 第1次産業 |                   | 5,769   | 2.3    |
| A     | 農業, 林業            | 5,754   | 2.3    |
|       | うち農業              | 5,671   | 2.2    |
| B     | 漁業                | 15      | 0.0    |
| 第2次産業 |                   | 58,690  | 23.0   |
| C     | 鉱業, 採石業, 砂利採取業    | 54      | 0.0    |
| D     | 建設業               | 19,498  | 7.7    |
| E     | 製造業               | 39,138  | 15.4   |
| 第3次産業 |                   | 173,903 | 68.3   |
| F     | 電気・ガス・熱供給・水道業     | 1,127   | 0.4    |
| G     | 情報通信業             | 4,859   | 1.9    |
| H     | 運輸業, 郵便業          | 11,021  | 4.3    |
| I     | 卸売業, 小売業          | 44,251  | 17.4   |
| J     | 金融業, 保険業          | 7,716   | 3.0    |
| K     | 不動産業, 物品賃貸業       | 5,234   | 2.1    |
| L     | 学術研究, 専門・技術サービス業  | 9,526   | 3.7    |
| M     | 宿泊業, 飲食サービス業      | 14,393  | 5.6    |
| N     | 生活関連サービス業, 娯楽業    | 9,977   | 3.9    |
| O     | 教育, 学習支援業         | 11,805  | 4.6    |
| P     | 医療, 福祉            | 26,228  | 10.3   |
| Q     | 複合サービス事業          | 1,735   | 0.7    |
| R     | サービス業(他に分類されないもの) | 15,404  | 6.0    |
| S     | 公務(他に分類されるものを除く)  | 10,627  | 4.2    |
| T     | 分類不能の産業           | 16,435  | 6.5    |

※人数, 構成比ととに, 総数は「T分類不能の産業」を含む

図-23 産業大分類別 15 歳以上就業者数



(5) 市外居住で宇都宮市に通勤する就業者（男女別）

市外に居住し、宇都宮市に通勤する就業者を産業大分類別・男女別にみていくと、男性では製造業 28,135 人 (19.4%) と最も多く、次いで卸売業・小売業が 21,871 人 (15.1%) の順となっている。

女性は卸売業・小売業が 22,380 人 (20.3%) と最も多く、次いで医療・福祉業が 19,866 人 (18.1%) の順となっている。

男女間で構成比に大きな差のある主な産業は製造業と医療・福祉業となっている。製造業は男性が 19.4%なのに対し、女性は 10.0%となっており、医療・福祉業は男性が 4.4%なのに対し、女性は 18.1%となっている。(表-32 参照)

表-32 産業大分類別 男女別 15歳以上就業者数（市外居住者で宇都宮市への通勤者）

| 産業大分類               | 男性      | 構成比(%) | 女性      | 構成比(%) |
|---------------------|---------|--------|---------|--------|
| 総数                  | 144,766 | 100.0  | 110,031 | 100.0  |
| 第1次産業               | 3,281   | 2.3    | 2,488   | 2.3    |
| A 農業, 林業            | 3,271   | 2.3    | 2,483   | 2.3    |
| うち農業                | 3,202   | 2.2    | 2,469   | 2.2    |
| B 漁業                | 10      | 0.0    | 5       | 0.0    |
| 第2次産業               | 44,367  | 30.6   | 14,323  | 13.0   |
| C 鉱業, 採石業, 砂利採取業    | 42      | 0.0    | 12      | 0.0    |
| D 建設業               | 16,190  | 11.2   | 3,308   | 3.0    |
| E 製造業               | 28,135  | 19.4   | 11,003  | 10.0   |
| 第3次産業               | 87,404  | 60.4   | 86,499  | 78.6   |
| F 電気・ガス・熱供給・水道業     | 909     | 0.6    | 218     | 0.2    |
| G 情報通信業             | 3,552   | 2.5    | 1,307   | 1.2    |
| H 運輸業, 郵便業          | 8,899   | 6.1    | 2,122   | 1.9    |
| I 卸売業, 小売業          | 21,871  | 15.1   | 22,380  | 20.3   |
| J 金融業, 保険業          | 3,639   | 2.5    | 4,077   | 3.7    |
| K 不動産業, 物品賃貸業       | 2,982   | 2.1    | 2,252   | 2.0    |
| L 学術研究, 専門・技術サービス業  | 6,525   | 4.5    | 3,001   | 2.7    |
| M 宿泊業, 飲食サービス業      | 5,009   | 3.5    | 9,384   | 8.5    |
| N 生活関連サービス業, 娯楽業    | 3,836   | 2.6    | 6,141   | 5.6    |
| O 教育, 学習支援業         | 5,032   | 3.5    | 6,773   | 6.2    |
| P 医療, 福祉            | 6,362   | 4.4    | 19,866  | 18.1   |
| Q 複合サービス事業          | 999     | 0.7    | 736     | 0.7    |
| R サービス業(他に分類されないもの) | 9,848   | 6.8    | 5,556   | 5.0    |
| S 公務(他に分類されるものを除く)  | 7,941   | 5.5    | 2,686   | 2.4    |
| T 分類不能の産業           | 9,714   | 6.7    | 6,721   | 6.1    |

※人数, 構成比とともに, 総数は「T分類不能の産業」を含む

## 用語の解説

### ○夜間人口と昼間人口

#### ・夜間人口（常住地による人口）

調査時に調査の地域に常住している人口。

#### ・昼間人口（従業地・通学地による人口）

従業地・通学地集計の結果を用いて下記により算出された人口。ただし、買物客などの非定常的な移動については考慮していない。

$$\text{昼間人口} = \text{宇都宮市の夜間人口} + (\text{宇都宮市への流入人口} - \text{宇都宮市からの流出人口})$$

### ○昼夜間人口比率

夜間人口 100 人当たりの昼間人口の割合であり、100 を超えているときは昼間人口が夜間人口を上回っていること（流入超過）を示し、100 を下回っているときは昼間人口が夜間人口を下回っていること（流出超過）を示している。

$$\text{宇都宮市の昼夜間人口比率} = (\text{昼間人口} / \text{夜間人口}) \times 100$$

### ○流出・流入人口

#### ・流出人口

宇都宮市に常住し宇都宮市以外へ通勤・通学する人口。

#### ・流入人口

宇都宮市以外に常住し宇都宮市に通勤・通学する人口。

### ○従業地・通学地及び常住地

#### ・従業地・通学地

就業者が従業している，又は通学者が通学している場所をいう。

#### ・常住地

調査時に，ふだん住んでいる場所をいう。

### 《区分と内容》

#### (1) 市内

宇都宮市内に常住しており，従業・通学先も宇都宮市内である場合。

#### (2) 自宅

従業している場所が，自分の居住する家又は家に附属した店・作業場などである場合。

なお、併用住宅の商店・工場の事業主とその家族従業者や住み込みの従業員などの従業員先がここに含まれる。また、農林漁家の人で、自家の田畑・山林や漁船で仕事をしている場合、自営の大工、左官などが自宅を離れて仕事をしている場合もここに含まれる。

**(3) 自宅外／自宅外通勤**

宇都宮市内に常住しており、従業・通学先も宇都宮市内の人で(2)の「自宅」以外の場合。

**(4) 市外**

従業・通学先が宇都宮市以外にある場合。又は、常住地が市外にある場合。(5)「県内他市町」と(6)「県外」の合計(ただし、市区町村不詳の者を含む場合がある)。

**(5) 県内他市町**

従業・通学先が栃木県内の他の市町にある場合。又は、常住地が栃木県内の他の市町である場合。

**(6) 県外**

従業・通学先が栃木県外の都道府県にある場合。又は、常住地が栃木県外の都道府県である場合。

**○産業**

・「産業」とは、就業者について、調査週間中にその人が実際に仕事をしていた事業所の主な事業の種類によって分類したものをいいます(調査週間中「仕事を休んでいた人」については、その人がふだん仕事をしている主な事業所の事業の種類)。なお、仕事をしていた事業所が二つ以上ある場合は、その人が主に仕事をしていた事業所の事業の種類によった。

・平成27年国勢調査に用いた産業分類は、平成25年10月に改定された日本標準産業分類を基準としており、大分類が20項目、中分類が82項目、小分類が253項目となっている。

・労働者派遣法に基づく派遣労働者は、平成17年以前の調査では、「労働者派遣業」に分類したが、22年調査から、派遣先で実際に従事する産業を基に分類。

**《産業大分類の区分》**

|       |  |
|-------|--|
| 第1次産業 | A 農業, 林業 B 漁業  |
| 第2次産業 | C 鉱業, 採石業, 砂利採取業 D 建設業 E 製造業   |
| 第3次産業 | F 電気・ガス・熱供給・水道業 G 情報通信業<br>H 運輸業, 郵便業 I 卸売業, 小売業 J 金融業, 保険業<br>K 不動産業, 物品賃貸業 L 学術研究, 専門・技術サービス業<br>M 宿泊業, 飲食サービス業 N 生活関連サービス業, 娯楽業<br>O 教育, 学習支援業 P 医療, 福祉 Q 複合サービス事業<br>R サービス業(他に分類されないもの)<br>S 公務(他に分類されるものを除く) |